

ヘレン・ケラー女史について

ヘレン・アダムス・ケラー(Helen Adams Keller/1880年6月27日-1968年6月1日)は、アメリカ・アラバマ州出身の教育家、社会福祉活動家、著作家。重い障害を背負いながらも世界各地を歴訪し、身体障害者の教育・福祉に尽くしたことで知られる人物であり、特にアン・サリバン先生(通称:アニー/当時20歳)とのストーリーは非常に有名である。

ヘレンは、生後19か月の時に高熱にかかり、一命はとりとめたものの聴力、視力、言葉を失ってしまう。その後、彼女の両親がパーキンス盲学校の校長アナグノスに手紙を出し家庭教師の派遣を要請し、その要請をうけて派遣されたのが、小さい頃から弱視の経験を持つアン・サリバンであった。アニーは、ヘレンに「しつけ」「指文字」「言葉」を教え、絶望視されていた「話す」ことを可能にし、その後約50年に渡り、教師・友人としてヘレンを支えたとのこと。その功績を讃え、フランス政府からレジオン・ド＝ヌール勲章、アメリカ政府から大統領自由勲章、日本政府から勲一等瑞宝章などが贈られている。(参考文献:ウィキペディア他)

著作物

「わたしの生涯/『The Story of My Life』(1903年)の翻訳」
「奇跡の人 ヘレン・ケラー自伝/『The Story of My LifeとMidstream』(1929年)の翻訳」
「光の中へ/『My religion』(1927年)の翻訳」など。